

阿部幹雄著『那須雪崩事故の真相—銀嶺の破断』

2017年3月27日に発生した那須雪崩事故。栃木県高等学校体育連盟が主催した「春山安全登山講習会」実施中に生徒7名、教師1名の8名が雪崩に巻き込まれ死亡、40名が負傷するという稀にみる大きな遭難事故の報道に眉をひそめた者は多かったに違いない。

講習会責任者の教員は事故後の記者会見で「絶対安全と判断した」、「100%雪崩は起こりえない場所だと思った」と述べていたが、会見を聞いていた著者は「なぜ雪崩の危険性の高い急斜面を登ったのか?」、「なぜ携帯電話で救助要請をしなかったのか?」、「なぜ教員たちは埋没者を迅速に発見救助しなかったのか?」等沢山の疑問を抱きその真相に迫っていく。

著者は四国生まれの四国育ちながら雪山に憧れて北大に進み、北大山スキー部に入部、以来ずっと山とスキーに明け暮れ北海道に居住。

1981年28歳の時に北海道山岳連盟のヒマラヤ遠征隊の一員として横断山脈の主峰「ミニャ・コンガ」7556mに挑戦し、下山中に同僚8名が滑落死するという遭難で偶々一人だけザイルを結んでいなかった為助かったという経歴の持主である。現在は雪崩の科学的な知識や搜索救助法、低体温症に関する啓蒙活動を行う「雪崩事故防止研究会」を設立し代表を務めており、事故後の講習会責任者の記者会見を見て多くの疑問を抱き、亡くなった高校生達や遺族の為にもこのまま看過できないと思い、真実を求めて生き残った生徒達への聞き取り調査や現地調査を始めたと云う。

講習会には山岳部のある県内の7校から男子51人、女子7人計58人と講師と引率教員14人が参加、日程は3日間でその目的は3点。

- ① 積雪期登山の正しい在り方を示し生徒に理解させる
- ② 安全登山に必要な知識、技術を習得
- ③ 春山登山の事故防止に役立てる

というものであったが、事故を起こしてしまった今、なんと虚しいお題目であることだろう。

事故前日の3月26日は南岸低気圧が関東に接近し18時頃から翌朝にかけ30㌢程の新雪が降りこの時期としては珍しい大雪となった。朝起きるとテントの半分が雪に潰れていて今日の行動はないだろうと思ったと証言する生徒も多く、講習会責任者は当初予定していた那須岳登頂を断念しスキー場上部でのラッセル訓練へと計画を変更した。

死亡した7名の生徒は全員大田原高校に在籍、本校は9年連続インターハイ栃木県大会で優勝し全国大会に出場しているが、秋の新人戦では真岡高校に負けて2位だった。競技は3人合計45kgの荷物を担いで定められた区間を3人で走った時間を競い、この得点配分が50点、残る50点はテント設営、地図読み、天気図作成、装備等の評価に配分され、走力が強ければ他校に大きな点差をつける事が出来る。当日の班分けは一班大田原高校12名、二班真岡高校9名、互いに負けられないという意識があり競い合う形となったのは否めず、真岡高が登ってくるのが見えた時、自分達はもっと上へと思ったのではないかと著者は推測し、雪崩は自然発生ではなく人が斜面に入った為に発生した人為雪崩の可能性があるのではと疑う。現地で検証した結果、板状結晶の弱層の上に降雪があり、不安定な状態の雪面に人的要素が加わり表層雪崩を引き起こしたものと推定、すぐ間近かで事故に遭い、全員生存したライバル校・



真岡高の生徒や教員達から証言を得ようと試みるが何故か拒否されてしまう。大田原高校の生存者は PTSD（心的外傷後ストレス障害）に苦しみながらも誠実に体験した全てを語ってくれたのだが、雪崩を誘発したかもしれない真岡高の証言が得られなかった為、科学的裏付けが取れなかった事が悔やまれ、教員達に雪崩の知識があり事前に弱層テストを行いその危険性に気付いていれば避けられた事故と残念がる。雪崩発生から消防への救助要請まで 39 分もかかっている連絡の遅れ等事故後の対応のお粗末さ、自分も犠牲者だという態度を隠さない負傷しながらも生き残ったリーダー格の教員は真実を知りたいという母の叫びに耳を塞ぐだけで黙して語らず。著者は怒り、読者も積然としない。

主催した高体連、指導教官達は事故の原因を究明し、責任を明らかにし、責任を果たし、再発防止の行動をとらねばならないのだが、只ひたすら沈黙を貫き逃げ回るだけでは遺族の怒りが鎮まらないのは当然だろう。

本書を読み今更ながら雪崩の恐ろしさを認識し雪山へ行くのが怖くなってしまった。さてどうしよう？

2019 年 6 月「山と溪谷社」刊 1600 円

(AKA)

★阿部幹雄 1953 年愛媛県松山市出身。北海道大学工学部卒。ミニャ・コンガ遭難後長年に渡り遺体捜索活動を行う。その後千島列島、カムチャッカ、シベリア極北の辺境の山々を踏破し、2007 年から 3 年連続で南極観測隊隊員として活動。写真家、映像ジャーナリスト。「雪崩事故防止研究会」代表。

著書：「北千島冒険紀行」山と溪谷社 1992、「生と死のミニャ・コンガ」山と溪谷社 2000、「ドキュメント雪崩遭難」山と溪谷社 2003 他

(了)